

シカ保護管理の経緯④

2007年 第2次神奈川県ニホンジカ保護管理計画

- ・基本構想、事業の実施状況等を踏まえて計画を改定
- ・計画強化: 通年捕獲、メスジカ中心、捕獲エリア拡大
- ・計画期間: 2007年4月～2012年3月(5年間)



2012年 第3次神奈川県ニホンジカ保護管理計画

- ・事業の実施状況と点検を踏まえて計画を改定
- ・計画強化: 水源林捕獲、山稜部捕獲、捕獲専従員配置
狩猟の頭数制限撤廃、狩猟期間延長etc
- ・計画期間: 2012年4月～2017年3月(5年間)

シカ問題の現状と目標

現状

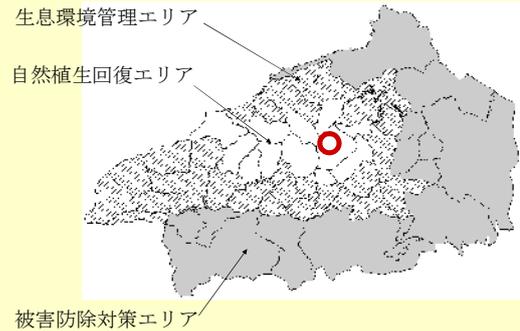
当面のゴール



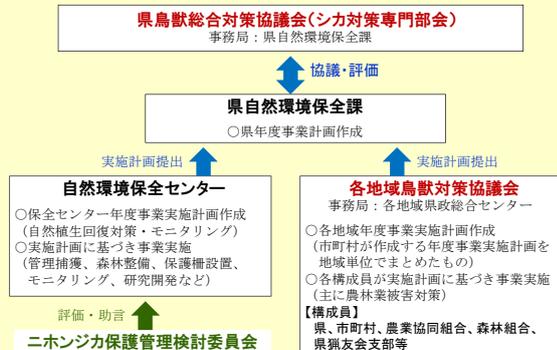
ニホンジカ保護管理の考え方

	個体数管理	生息地管理	被害防除
高標高域 自然植生回復地域	WLRによる山稜部管理捕獲 管理捕獲	植生保護柵設置 土壌流出防止対策	
中標高域 生息環境管理地域	管理捕獲 水源林整備地 周辺管理捕獲	人工林間伐 混交林誘導	植生保護柵 設置
低標高域 被害防除対策地域	管理捕獲 わな捕獲	荒地地解消 誘引除去	防護柵設置
	地域が主体となって取り組む被害防除対策		

保護管理区域のゾーニング



シカ保護管理計画の推進体制

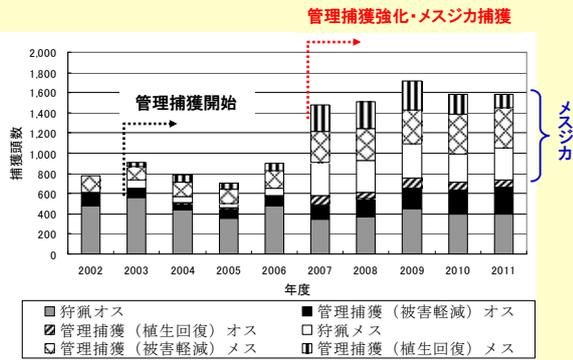


計画的にシカを捕獲＝管理捕獲

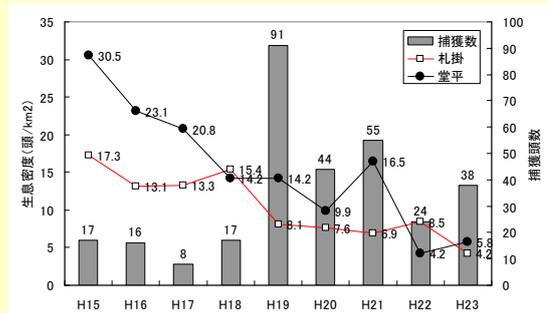
県猟友会への委託によりシカの管理捕獲を実施
植生変化や捕獲個体の質の変化をモニタリング



丹沢全体のシカの捕獲状況



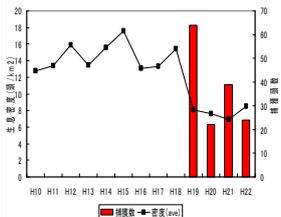
捕獲を継続した堂平等ではシカ密度が低下



堂平・札掛(中津川B・C)でのシカ管理捕獲頭数と生息密度
(札掛の生息密度はNGO調査結果(未発表)に基づく)

～ 先行事例の紹介 ～

森林整備を計画的に行っている県有林で管理捕獲を実施



H19から捕獲を継続し、
シカの生息密度が低下

※生息密度はNPOによる調査データ(未発表)

シカがあまり食べない植物を
中心に植生が回復傾向

森林とシカの一体的管理の有効性を示唆

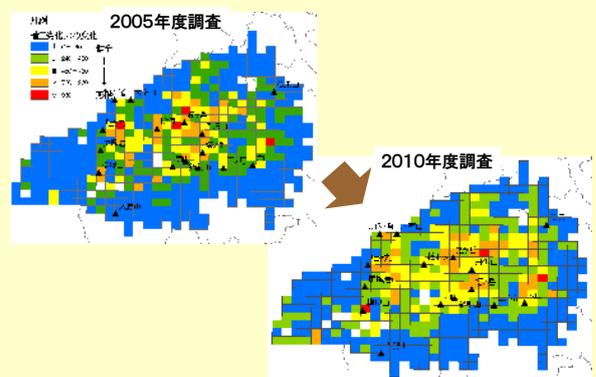
2007年(再生計画開始)時点の堂平



2012年6月下旬の堂平の様子



しかし丹沢全体では植生の衰退が継続



高標高の山稜部の状況



ブナ林が消失・ミヤマクマザサが繁茂

高標高の山稜部の状況



春先はシカ糞のじゅうたん

高標高の山稜部の状況



場所によっては土壌流出も

水源の森林づくり事業の効果

整備前

間伐、枝打ち
植生保護柵

整備後

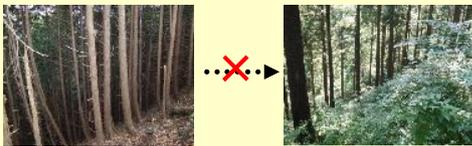


手入れ不足や
シカ影響
→下草減少

事業モニタリング
・植生
・光環境
・土砂移動量

下層植生の回復
土壌流出の防止

下層植生の豊かな水源林になるはずが...



シカが食べない植物ばかり



植物が生えず土が剥き出し

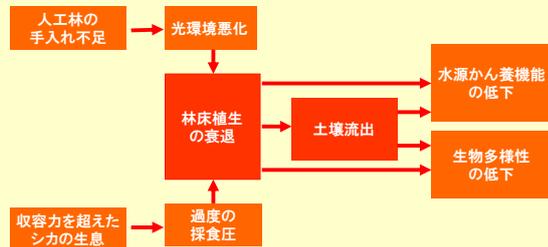
23

宮ヶ瀬湖畔の森林整備地



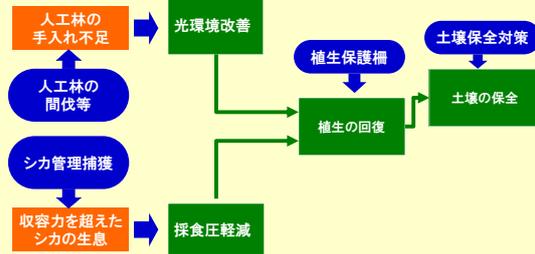
24

森林とシカに関する問題のつながり



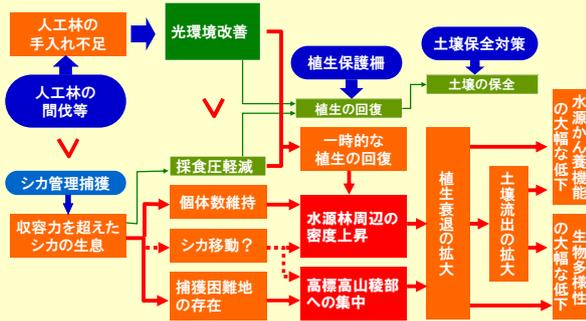
2009年1月24日 森林管理・シカ管理ワークショップ
「問題連関図たき台」(羽山)を一部改良

これまでの取り組み



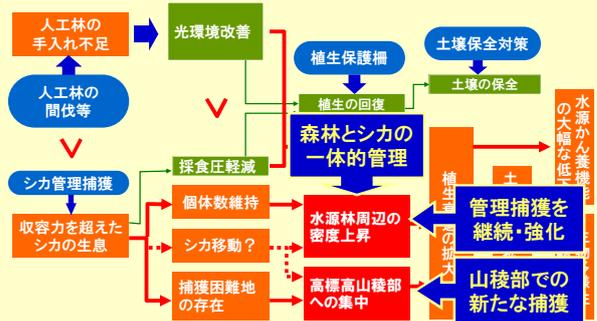
2009年1月24日 森林管理・シカ管理ワークショップ
「問題連関図たき台」(羽山)を一部改良

浮かび上がってきた新たな課題



2009年1月24日 森林管理・シカ管理ワークショップ
「問題連関図たき台」(羽山)を一部改良

対策の連携・強化の必要性



2009年1月24日 森林管理・シカ管理ワークショップ
「問題連関図たき台」(羽山)を一部改良

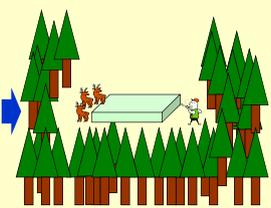
2012年からの新たな取組

- 1 森林管理とシカ管理の一体化
 - ・水源林整備地周辺での管理捕獲
 - ・森林施業とシカ捕獲の連携の試行
- 2 標高の高い山稜部での管理捕獲
 - ・新たな捕獲手法の検討・実施
- 3 シカ捕獲等に従事する専門職員
＝ワイルドライフレンジャーの配置

森林施業とシカ捕獲連携の例



人工林の群状伐採と
植生保護柵設置



群状伐採地を活用して
シカを誘引捕獲

植生の変化やシカの訪れ等をモニタリング

将来的には、林床植生の豊富な混交林化をめざす

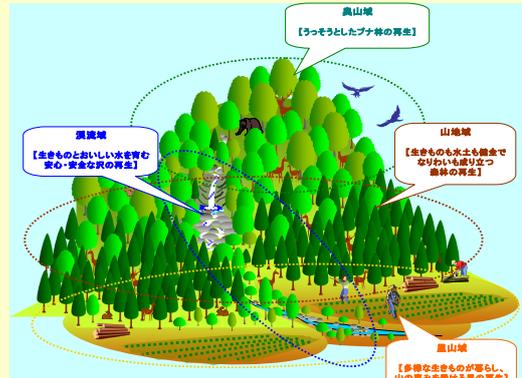
新たな捕獲手法の検討・実施

- ◆忍び猟
- ◆追い出し猟
- ◆少人数組猟
- ◆流し猟
- ◆林道車上射撃
- ◆足くりわな猟
→改良による混獲防止
- ◆植生保護柵の活用
・・・など



植生保護柵を活用した試験捕獲

森林とシカの一体的管理の目標イメージ



自然環境保全センターの設立

- 県立自然保護センター
- 箱根自然公園管理事務所
- 丹沢大山自然公園管理事務所
- 森林研究所
- 県有林事務所
- 水源の森林推進課
- 分収林課

平成12年4月 → 平成22年4月

自然環境保全センター

《目的》

- 緑関連施策の効果的展開
- 丹沢大山保全計画の総合的な推進

● 水源環境保全エリアを含む森林・緑関係の中核的な推進母体

東丹沢堂平について

- 丹沢山の北西 標高1000~1200mに位置
- 関東ローム層が厚く積もった緩やかな地形
- ブナ、シオジ、ウラジロモミなどの自然林
- 国定公園特別保護地区に指定



東丹沢堂平の変貌



1960年代の堂平

堂平で何が起きたのか？

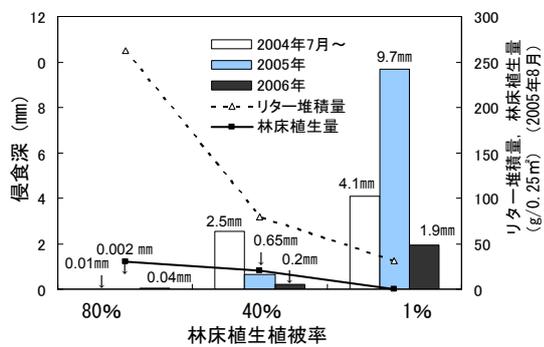
1960~70年代 シカ保護と拡大造林が重なってシカ急増
冬にシカが堂平(緩地形・スズタケ密生・保護区)に集中

1980~90年代 スズタケが衰退・枯死・消滅

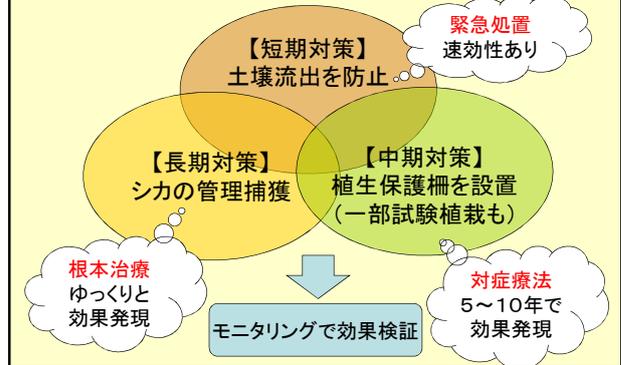
5~10年かけて地中の根茎の網が失われる

土壌流出の発生

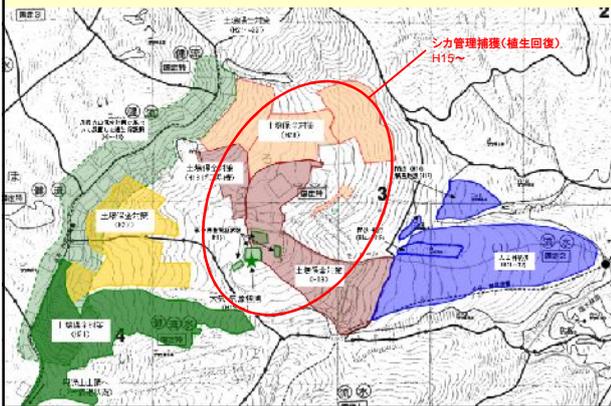
林床植生と土壌流出の関係



東丹沢堂平の自然再生事業



各事業を集中して実施



植生保護柵の設置



植生保護柵の効果



土壌流出対策の実施

生態系と景観に配慮した多様な工法を
組み合わせて施工



実施前の堂平の土壌流出状況

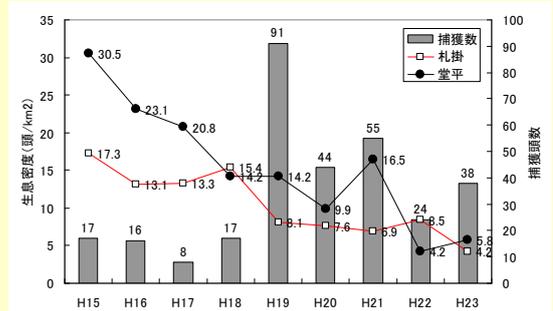


土壌流出対策の効果



43

捕獲を継続した堂平等ではシカ密度が低下



堂平・札掛(中津川B・C)でのシカ管理捕獲頭数と生息密度
(札掛の生息密度はNGO調査結果(未発表)に基づく)

土壌流出対策の効果

2007年5月



2011年6月



45

植栽・天然更新による森林再生

現地産の種子から育成した苗木植栽や
天然更新による試験的事業を実施



苗木を育成



植栽木の生存率が高い
林床植生が無い所で稚樹が多数生育

森林とシカの一体的管理は
丹沢の自然再生の
鍵を握っている

ご静聴ありがとうございました